

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472100508
法人名	株式会社 SHINEI
事業所名	なでしこの家
所在地 (電話番号)	三重県員弁郡東員町穴太字大谷2578-4 (電話) 0594-33-2222
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 2 月 20 日(水)

【情報提供票より】 (H19年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 11人, 非常勤 3人, 常勤換算 12人	

(2)建物概要

建物構造	木造 平屋		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,300 円			

(4)利用者の概要(12 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 101 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	きひら内科消化器科 いなべ総合病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の北東部に位置し隣市との境にあり、近くにカントリー倶楽部等のある山林に囲まれた静かな場所で明るい色の建物は事業所で、居宅支援事業所、デイサービスと併設している。周囲に民家の少ない立地環境をプラス指向でとらえ、積極的に事業所から広域的な地域に出掛けるように努めている。日常の介護においては、管理者はじめ職員は若く熱意があり、利用者の意向を大切に笑顔で、希望、感謝、気づかいを目指して日々問いかけながらの介護がされている。今後利用者の重度化に向けて介護ケアの向上を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点は、「金銭管理」についてで、利用者の一部だけしか収支報告書を送付していなかった。すぐに改善され現在は利用者全員の現金出納帳が作成され、入金時に家族が出納帳を確認されていた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者、リーダー、主任とで話し合い管理者がまとめた経緯がある。今後は更なる介護の向上のため自己評価は全職員で検討されまとめられるのが望ましい。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議は本年度6月・11月に開催、概ね3ヶ月に1回開催されている。メンバーは、利用者、家族、地域住民、町職員、管理者が出席し、事業所の概要、行事予定等の報告や意見交換がされ、会議の記録もされていた。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>事業所の行事に参加された家族、利用者にも参加後のアンケートを実施して、意見希望等を汲み取り、出された意見は会議等で話し合いケアサービスの向上に努めている。苦情相談窓口は重要事項説明書に明記されている。</p>
	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所の立地環境(2市1町境)から近隣には民家がなく地域との交流は難しいため、事業所から地域(市町)の開催する行事に参加している。町文化協会からのボランティアの訪問は受けている。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の基本理念の、「みんなの笑顔は、みんなの命のお薬」を踏まえて、毎年目標としての新しいコンセプトを職員と話し合い介護の実践をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は玄関、事務所に掲示されている。「ホーム作り」については年1回検討し新しいものに変更している。ミーティングのときにも常に話し合い実践に結び付けている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地環境上民家がないため事業所から積極的に地域(市町)の行事に参加し交流するように支援している。町の文化協会からのボランティアの訪問は受けている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者、リーダー、主任で話し合いその後管理者がまとめた。外部評価はミーティングの時に報告し改善に向けて話し合い日々の介護の向上に努めている。	○	事業所の熱意と前向きな取り組みは、評価されるが、自己評価も更に一歩進めて全職員で検討しまとめられるのが望ましい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、本年度6月、11月に開催、概ね3ヶ月に1回開催されている。メンバーは利用者、家族、地域住民(シルバー人材センター)、町職員、管理者、職員が出席し、事業所の概要、抱える問題(終末期ケア)、行事等を報告し会議の記録もされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設事業(居宅支援、デイサービス)との関連もあり、町職員担当者の来訪もあり、事業所としての連携はよく取れている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは、月1回発行の「なでこたより」に利用者一人ひとりの健康状態、職員の異動も記載し送付している。金銭管理は利用者一人ひとりの現金出納帳があり、入金時に家族が確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、よく話しかけるように努めている。また、行事に参加した家族には、その時アンケートに記入してもらい、家族の意向を汲み取るようにしている。苦情、相談窓口等は重要事項説明書に明記しており、家族からの意見等があった時は会議で話し合い、ケアサービスに繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあったが、職員の満足度を考慮することは、利用者への影響は小さいと考えている。現在職員の異動は落ち着いている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3か月に1回研修に参加している。研修後は伝達もされている。事業所独自の「自己スタイル分析チェック」を実施して、自己研鑽に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の事業所を相互に訪問する等を通じてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
施					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者、家族には、事業所の雰囲気や職員、利用者同志が馴染んでもらうため見学を受け入れている。併設のデイサービスからの利用希望者の場合は早期に雰囲気に馴染んでもらっている。		
の					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者信頼関係を保ちながら、日常の暮らしの中で、食事の盛り付け、配膳、後片付け来客への湯茶の接待、裁縫(浴衣を縫う)等を一緒にやりながら学ぶ事があり支えあう関係になっている。		
CD					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活のなかで利用者一人ひとりの思い、希望を日記帳に書きとめてもらい利用者の意向に沿うように努めている。6ヶ月に1回は利用者の意向調査を実施している。(満足度、不満、希望)		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族等の意見、意向を把握しケアカンファレンスで、検討され介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成後6ヶ月の時点で、ミーティングで検討し見直しをしている。利用者の状態に応じて随時話し合い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の希望に応じて行事(祭)、入院者へのお見舞い、医療機関受診等に職員が一緒に出かける支援をしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に定期的に受診する利用者があり、事業所との連携はよい。また、協力医療機関とも常に連絡は取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に終末期ケア経験があり、「みどりの指針」を作成し利用者、家族、職員とも同意を得ている。今後の終末期ケアについては、利用者、家族、事業所、協力医療機関等で方針を検討している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりにあったトイレ誘導、入浴介助等の言葉かけには配慮している。下着類の洗濯干し、片付け等は人目に触れないように扱っている。書類等の個人情報の取り扱いも周知され、利用者、家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者一人ひとりの気持ち、体調を尊重して散歩、買い物等に出かけられるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事が楽しみになっており、週1回ニコニコ会食(毎日曜日)としてバイキング方式で、職員と一緒に食事を楽しんでいる。月1回は菓子づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴はできるようになっている。基本的には週2～3回は入浴してもらうよう入浴実施表を使用していた。感染症のある利用者には配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、好きな事を見出し、食事盛り付け、後片付け、カメの餌やり、玄関の掃除、花の水遣り裁縫(浴衣)等楽しみであり役割にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は、庭に出て日光浴、畑仕事、利用者の体調に応じて買い物、喫茶店に出かける等、併設のデイサービスにも行き来している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常は利用者はデイサービスの玄関から出入りする事が多い。居室は施錠されていない。玄関は外からは入れようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回防災、避難訓練を実施されている。緊急連絡網は整備されており、災害時は隣の地域住民(会社寮)への協力をお願いしてある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり開始ア					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は食材業者から購入、献立、栄養のバランスは配慮され、調理は事業所で行っており、特別献立も事業所で賄っている。各自の食事摂取量、水分摂取量も記録されていた。水分摂取量の少ない利用者には見守りをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の下駄箱の上に利用者の願いの標語が毛筆で書かれ張られていた。廊下の天井は高く、天窓からの明るい光は心地よい。廊下の壁には、事業所の歴史が感じられるイベントの写真が貼ってあり、一角にはソファが置かれてあった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベット、収納押入れ、カーテンは設置。利用者それぞれに仏壇、人形、家族の写真等が持ち込まれ、落ち着いて過ごせるようになっていた。		